線のタイル
ー線のいろいろな魅力と線の可能性を探ろうー

西井恵美子（和歌山市立松江小学校）

のびのびとした、魅力ある線を描く

題材コンセプト

線には様々な価値があるが、その価値が生まれるひとつのあり方に「差異＝違い」がある。線の色、太さ、強さ、震えなどの「質」。そして線が生み出す「かたち＝フォルム」。本題材では、自由な線遊びから出発し、その差異を様々につくり出す体験をする。徐々に興味を身体的な行為性から視覚性に移行させつつ、用紙をカード状に小さくし、かたちの差異にも興味を向けさせる。文字や記号になる一歩手前で、線の多義的な魅力を感じ取ることが重要である。線の質、かたち、意味、イメージ…。その多義的魅力は「タイル並べ遊び」のなかで鑑賞活動をする時に更に大きくなる。

1．題材について

この題材には二つのねらいがある。

一つ目は、描線遊びを通して、線にはそれ自身に魅力と質と表現性があることを体験することである。様々な線を描いていく活動の中には、なにかをイメージして描く線や無意識のうちに生まれる線など様々なものがあるだろう。また、色にバリエーションを持たせることで、さらに線に表情が付け加えられていく。子どもが思いつくままに描線する活動から、子ども個性や発達に応じた、線の質や魅力、表現性が見えてくるだろう。

二つ目は、描いた線の紙片をタイルに見立て、いくつか集めてタイル状に並べて「みる」ことから生まれる学びである。条件設定してカードを弁別し、記号的に並べたり、意味を持たせたり、絵画的にとらえたりして、その並べ方を工夫しながら表す。そんな活動を通して、子どもたちはそこに新たな線の魅力や、線が作り出す空間の可能性が生まれることを感じるだろう。そこに表現と鑑賞が連動する学びを見てとることができる。

2．学習目標

(1) 線を描くことに関心を持ち、よさやおもしろさを感じる。**[関心・態度]**

(2) 描きたい線を様々に思い浮かべたり、タイルの並べ方を考えたりする。**[発想・構想]**

(3) 様々な線を描き、線の特徴を活かしてタイルを工夫して並べたりする。**[創造的技能]**

(4) 自分や友達の表現や活動のよさに気づき、並べて遊びながらイメージを広げる。**[鑑賞]**

3．学習の流れ・指導計画

『線のぼうけん～線コレクション～』

（小学校第 2 学年　全 4 時間）

■第一次：描線遊びをする。

低学年の子どもたちにとって、ダイナミックに身体全体を使って楽しむこと、遊びの要素を取り入れることは重要な要素である。身体全体を使って、腕や指先を大きく動かしながら描線し、そこから生まれる線のおもしろさを感じてほしい。また、数人のグループで行うことで、互いの線が交わり合ったり重なり合ったりすることを楽しみ、遊びながら線のおもしろさに気づけるような活動（造形遊び）にしたい。そして、活動するうちに身体運動のコントロールにより線質が変わり、多様な線が生み出されることにも気づかせたい。

■**第二次**：多様な線を描く。

グループで行った描線あそびから、個々の描線表現へと進める活動である。身体の動きをコントロールしながら多様な線を生みだしていくことで、線の対する意識を高めていく。これまで持っていた線に対する見方や感じ方を更新し、新たに線の魅力や線の可能性を感じることができるような指導の工夫や手立てを考えたい。

■**第三次**：多様な線を集めて、ならべる。

多様な線が描かれたカードを作り、そのカードをタイルに見立てて、並べ方を考える。カードに描かれた線に注目して、どんな並べ方をするのが美しいかを考えたり、線から生まれるイメージを言葉にして弁別したりすることで、表現と鑑賞の能力を相互に働かせた活動となるだろう。

4．指導のポイント・学びのフォーカス

(1) 大きな画面から小さな画面へ

低学年において、身体全体を使って表現することはとても重要な要素となる。

はじめに模造紙にのびのびと描線することで、子どもたちは心身を解放し、遊びながら描線の楽しさを感じていた。身体全体を使って移動しながら描いたり、腕を大きく動かして描いたり、手首を回しながら描いたりとダイナミックな活動となった。ここで得られた感覚を活かしつつも、描線のコントロールが焦点化していくよう、次は表現する画面を小さくしていこうと考えた。

子どもたちにとって身近な **B4** サイズは、一般的なノートを広げた大きさであり、机上での描線コントロールがしやすい大きさである。第一次とつなげて行うことで、指先だけで描くのではなく、腕やひじ、手首などを使い、のびのびとした描線表現を引きだすことができた。

そして第三次に、**7** センチ四方のカードへと画面を狭めていくことで、一層線への意識やコントロールが高まっていった。指先を慎重にコントロールしながらの、多様な線が生み出され、イメージを持って表したり、線質の違いを意識して表したりした。

このように表現画面の大きさを変えていくことで、身体運動と連動した描線の学びを明らかにすることができた。

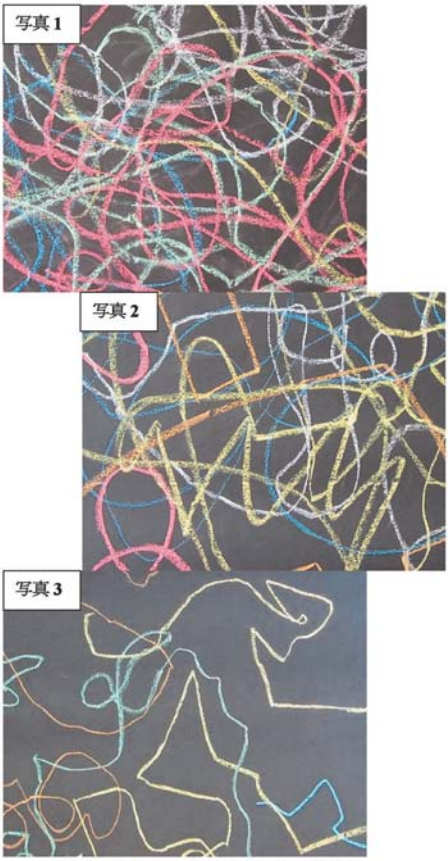
(2) 描線コントロールに対する指導

第一次の描線遊びでの指導の流れを挙げる。まず子どもたちの自然な表現を観察したいと考えた。**5,6** 人グループで **2** 分程度の時間を設定して表現させると、たくさんの線をハイスピードで描き、幼児のぐるぐる描きが表れる。**[写真 1]**そこで、次のグループには「ゆっくり描いてみよう」と投げかけた。すると、描線スピードが遅くなるのと同時に、線質にも変容が見られてきた。**[写真 2]**さらに次のグループには「前のグループよりもっとゆっくり描いてみよう」と投げかけると、指先の感覚に集中しながら描線し、はじめには見られなかった線質が表れた。**[写真 3]**

このように描線コントロールについての指導を段階的に行うことで、子どもたちの描線が単なる遊びで描いた偶然のものではなく、意識して表現する絵画教育へのつながりを見せたと言える。

線が生み出される指先に集中しながら・・

「もっとゆっくり描いてみよう」指先に集中・・



描線コントロールが変更していく様子

(3) 線の魅力に迫る手立て

第二次で行った、多様な線を描く活動で生まれた作品を鑑賞する際に以下のような手立てを取り入れてみた。

7 センチ四方を切り取ったフレームを使って、表現した作品の好きな部分を探し出す。以下のように部分に着目すると、線の美しさやおもしろさ、色のバランスなど、鑑賞の能力を働かせた活動ができる。単に好きな部分を探すのでは視覚的に明確にならないが、フレームを用いることで、いろいろな部分を比較しながら、線の質や交わり、色や面のバランスを考えることが容易になる。線の魅力に迫るために有効な手立てであることが感じられた。

すきな部分をフレームで切り取り、鑑賞する

5．鑑賞と批評

(1) グループでの協同的な学び

第一次の描線遊び、第三次のカードを並べる活動をグループで行うことで、協同的な学びの姿を見出すことができた。

第一次の描線遊びでは、数名の友達と同時に行うことで、友達の線を意識して描いたり、友達の線と交わって生まれる線の奥行きに気づいたりしていた。また、自分とは違う線質を生みだす友達の線を真似したり、また自分の線が友達の線に影響を与えたりしながら、大きな画面に描かれるダイナミックな線の魅力に浸っていった。

友達から刺激を受けたり、互いの線が交わったり・・

また、第三次では、自分の感じたことや思いを、友達の感覚や思いとつなげたり比べたりしなが

ら、カードの並べ方を考えていった。自分たちのカード1枚1枚を鑑賞しつつ、カードから想起する言葉を交流したり、それらを並べる全体像を思い浮かべたりする話し合いを通して、グループの作品がつくり上げられていく。その過程で、表現と鑑賞の能力を相互に働かせている姿がみてとれた。

「こんなふうにするのはどう？」話が弾む

このような協同的な学びの姿は、個々の表現能力を重視する図画工作においても、個々の表現の幅を広げたり、新しい視点に気づいたりすることにつながり、活かされるよさをもつ、重要なものであると言える。

(2) 題材を振り返って

本題材は、子どもたちがこれまで意識していなかった線の魅力や可能性に気づかせるものであった。身体感覚を研ぎ澄ませ、身体全体を使って描くことから始め、段階を追って線の本質的な魅力を感じ、様々な線を表現したり、線を鑑賞したりする中で、線があらゆる表現のもとになりうることを子どもたちは実感していった。また、線から生まれるイメージを言葉にしたり、言葉からイメージされる線を描いたりして、表現と言語が結びつき合う鑑賞活動にも発展することができた。さらに、線を入り口とし、絵画教育へのつながりを論じられるよう、本題材に続く学習を今も模索中である。

和歌山市立松江小学校2年生　指導：西井恵美子、2012